

2022年度

中国留学報告書

実習先：北京師範大学

実習期間：9月13日～12月23日

新潟国際情報大学

国際文化学科

学籍番号：21019035

氏名：古関里桜香

## 目次

1. 留学先及び実習期間 .....	3
2. 留学先概要.....	3
3. 留学目的 .....	3
4. 留学内容 .....	4
4-1. 留学スケジュール.....	4
4-2. 時間割.....	4
授業内容と授業外の活動.....	4
5. 当初目的・目標への達成度.....	5
6. 反省点・課題 .....	6
7. 謝辞.....	6

## 1. 留学先及び実習期間

実習先：北京師範大学

実習期間：令和4年9月13日(火)～12月23日(金)

## 2. 留学先概要

### (1) 大学について

北京師範大学は、中国初の師範大学として設立され、教師の育成や教育分野の研究で国内最高峰の教育大学である。教師や教育学の分野で活躍する人材を数多く輩出しており、対外中国語教育をはじめ、文系、理系の教師人材など多くの分野における人材育成の中核機関としての役割も担っている。キャンパスは海淀キャンパスと西城キャンパスに分かれており、23 学院および大学院を有している。本科は 60 の専門コースに分かれている。また国際交流も積極的に行っており、21 学部の 36 専攻で留学生の受け入れを行っており、現在 50 以上の地域から留学生が集まっている。

### (2) 大学で行われている教育について

多くの国からの留学生を受け入れていることに特徴があるため、中国の学生以外にも多くの国の学生と交流できる。入学時のレベルチェックテストにより、初級、中級、上級のクラス分けが行われ、自分のレベルに合ったクラスで中国語を学ぶことができる。中国語の授業でも言語、文化、習慣などの面から総合的に学習を行う。各授業に先生と助教（アシスタントティーチャー）がおり、助教は宿題の添削や採点の他、学生からの授業に関する質問に答える。

## 3. 留学目的

今回の留学の目的は、日本語が通じない環境で中国語を学び、スピーキング力とリスニング力を高めることである。学内で中国語の授業の際に、単語がいくつか聞き取れないことや、言いたいことを中国語で表現できないということがあり、スピーキング力とリスニング力を伸び悩んでいる点として捉えていた。そのため、中国語だけの環境で毎日学ぶことで中国語が聞き取れるようになり、話す能力も向上していくと考えた。

また現地での留学であれば、文化の違いを身をもって体験することも目的の一つであったが、今回はオンライン上での留学だったため、中国文化を体験することは目的から除外した。しかし、Wechat を用いてクラスメイトとの交流をすることは可能なため、積極的にコミュニケーションを図って交友関係を持つことも目的とした。

## 4. 留学内容

### 4-1. 留学スケジュール

月	日	内容
9	27	レベル分けテスト受検期限
	13	オンライン授業開始、他レベルの試聴可能期間
	19	クラス決定
10	24	中間試験
11	3	↓
12	19	期末試験
	23	↓ オンライン留学終了

### 4-2. 時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
16:30 ～ 18:10	读写	听力	读写	听力	
18:30 ～ 20:10	会話	读写	会話	会話	听力

- ・クラス分けテストによって分けられたクラスごとで授業時間と授業内容は変わる。
  - ・授業時間 100 分のうち 10 分休憩があり、45 分授業→10 分休憩→45 分授業の実質 90 分授業である。
- ※ただし授業の進度によっては 5 分休憩になることや、先生によっては 10 分休憩がない代わりに 10 分早く終わることもある。

## 授業内容と授業外の活動

### i. 读写

テキストの本文を用いて文法を中心に学び、音読練習や習った単語や文法を使った作文練習などを行う授業。授業中に教わった単語や文法を使った作文を即座に行うため、以前勉強した文法や単語なども使うことで、復習も同時に行うことができた。さらに宿題として出されたテキストの練習問題の答え合わせや、それがなぜ正解・不正解なのかを説明することも授業内で行ったため、文法が身に付いた。

## ii. 会話

テキストの音読練習と、先生と会話練習をすることでスピーキングスキルを高めることを目的とした授業。先生との会話練習はテキストの本文や本文に出てくる単語に関する質問に答える。会話練習の中でリスニング力も高めることができる。またこのほかに週に 1, 2 回程度、先生の出すテーマに沿ってパワーポイントを作成して一人ずつ発表を行った。発表後、先生から内容に関する質問をされるため、そこでも会話の練習を行うことになる。

## iii. 聴力

テキストの本文や単語を教科書の音源や先生の音読を聞いてシャドーイングを行い、リスニング力を高める授業。毎時間の冒頭で教科書のセンテンスを 5 文ほど聞いて、書きおろすという学習も行った。さらにパワーポイントの文章を読み、それを参考にペアで質問し合い学習をした。このほかにも授業の内容に沿って、クラスメイトの国の文化比較なども行い、異文化理解にもつながった。

## iv. クラス分けテスト

授業開始の前に Wechat のグループに加入し、そこで出たクラス分けテストを期限までに受検する。このテストは筆記試験である。テスト数日後にクラスが発表されるため、授業開始の前に自分のクラスの Wechat グループに参加し、教材をダウンロードするなど準備を行う。ただし、授業開始後最初の 1 週間は他クラスの授業を試聴できる期間のため、自分のクラスと他クラスの授業を受けてみてクラスを変更することも可能である。

## v. 中間試験・期末試験

中間試験と期末試験はそれぞれ 1 週間の期間が設けられている。各科目 1 時間の試験時間であるが会話課のみ 90 分間である。读写課のテストは、主に単語・文法問題、長文読解、作文である。聴力課のテストは、音源を聞いて解答用紙に答えを書く形式である。会話課のみ口頭試験と筆記試験がある。口頭試験は教科書の音読と先生の質問に答える形式で、筆記試験は文法問題と作文を行う形式である。

## 5. 当初目的・目標への達成度

今回の留学を振り返り、まず当初の目的であったリスニングの向上については、毎日中国語を聞いて過ごしていたことで以前より聞き取れる単語や文章が増えたと感じる。またスピーキングの能力についても、授業で積極的に発言したことや、何か話す際には留学の授業の中で学んだ表現を用いて会話や発言をしていたためスピーキング力と表現力が身に付いたと実感している。

クラスメイトや先生と直接会うことができなかったものの、Wechat を用いてクラスメイトと交流をすることができただけでなく、中国での生活や祭日の過ごし方の様子など

Wechat を用いて先生から学ぶこともできた。さらに授業内で先生が積極的にクラスメイトの国の文化について質問をして触れていたことで、文化の違いを感じることもできた。

今回の留学はオンライン形式だったため、留学前には授業のことだけを毎時間行うものだと想像していたが、先生方のご尽力によって中国語能力の想像以上の向上を感じることができ、可能な範囲での異文化理解もできたため、オンライン形式ではあったが、学んだもの・吸収したものは大きかったと感じる。

## 6. 反省点・課題

今回の留学は、4年生後期に参加したものであったため卒業論文と並行して学習していた。そのため留学終盤になるにつれて、予習や復習がおろそかになってしまった後悔がある。学んだことを忘れないように今後も復習を繰り返して行っていくことで、更なる中国語能力の向上を目指していきたい。

## 7. 謝辞

今回、留学で大変お世話になった北京師範大学の先生方ならびにアシスタントティーチャーの先生方、新潟国際情報大学・北京師範大学関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また今回の留学にあたってサポートして下さった區健英先生、留学中にゼミナール以外のお時間に卒論の指導をして下さった佐々木寛先生、留学を支えてくれた家族に心より感謝を申し上げます。さらに最後に、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、今回の留学が実現し、充実した学びや経験をすることができましたことを心より御礼申し上げます。卒業後もさらに精進していけるよう学びを続けてまいりたいと思います。この度は誠にありがとうございました。